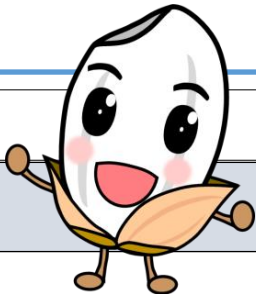


令和8年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第6号（水稻）

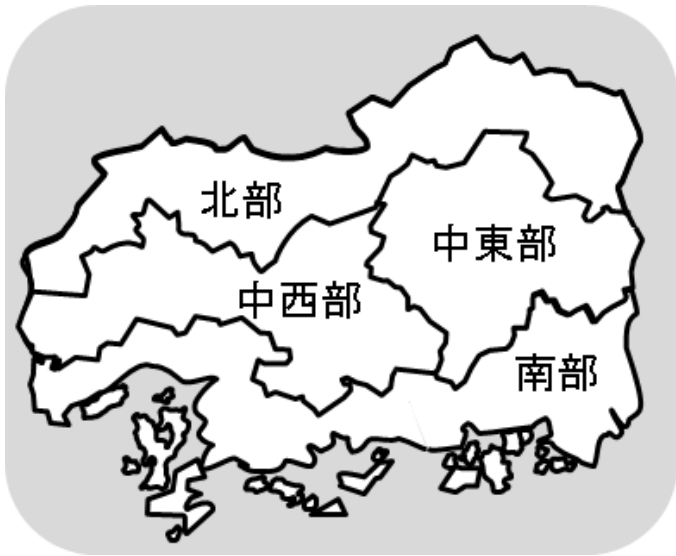
令和8年7月24日発表（対象期間：令和8年7月下旬～8月上旬）



1-（1） 水稻病害虫の現況と予報（概要）

病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
穂いもち	中北部 （早生）	葉いもち やや少 	穂いもち やや少 	・ 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の基幹防除を徹底しましょう。
	中西部・中東部	葉いもち 少 	葉いもち 少 	
葉いもち	南部 （中生）	葉いもち 並 	葉いもち 並 	・ にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を回り、葉いもちの発生が見られたほ場では直ちに防除しましょう。
紋枯病		やや少 	並 	・ 梅雨明け後に高温で経過すると感染が進み、発病株率が増加するので注意が必要です。 ・ 昨年、発生が多かったほ場は注意が必要です。 ・ 防除を行う判断の目安は、穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上になった時です。

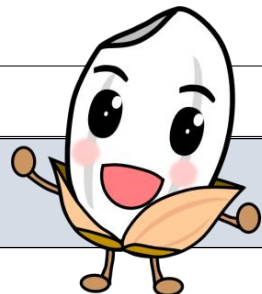
水稻虫害（概要）は次ページに掲載しています。



【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」： 1 番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」： 2～3 番目と同程度
- 「並」： 4～7 番目と同程度
- 「やや少」： 8～9 番目と同程度
- 「少」： 10 番目（最少年）と同程度以下



病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
セジロウンカ			・穂ばらみ期の防除を徹底しましょう。 ・一部の飼料用米では、特に注意しましょう。 ・要防除水準、幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上
トビイロウンカ			・長期残効型箱施用剤を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。 ・要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
コブノメイガ			・粒剤の防除時期は発蛾盛期（成虫が多く見られる時期）、粉剤・液剤の防除時期は発蛾盛期1週間後です。 ・中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、防除を行いましょう。
イネカメムシ			・出穂前から水田に侵入し、不稔を発生させることが確認されているため、多発地域では出穂はじめに防除しましょう。 ・斑点米被害防止のため、発生が多い場合は出穂期以降の2回目防除も検討しましょう。 （防除時期） 出穂期～その10日後に1～2回
斑点米カメムシ類			・早生品種では、被害が集中するため基幹防除を徹底しましょう。 ・出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控えるようにしましょう。中生では出穂2週間前までに除草を終えましょう。 （要防除水準） カスミカメ類：4頭以上／20回振り、 その他加害種：2頭以上／20回振り （防除時期） カスミカメ類 出穂期～その10日後に1～2回 その他加害種 出穂7日後～14日後に1～2回

①- 1 穂いもち 北部 (早生品種)		現況 (葉いもち)	予報 (穂いもち)
予報の根拠	●7月下旬巡回調査では、葉いもちの発生地点率は12.5% (平年値19.6%)、発生程度は1.02 (平年1.1) で平年よりやや少ない発生です (-)。 ●中国地方1か月予報では、気温が高く、降水量も少ないため、いもち病の発生を抑制します (-)。 ●BLASTAMによる累積感染好適日は、平年よりも高く推移しています (+)。	やや少	やや少
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因			

【防除上の注意事項】

- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。
穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちが見られたほ場では直ちに防除しましょう。
- 以下の「ひろしま病害虫情報 病害虫図鑑 (普通作物)」もご覧下さい。

「病害虫図鑑 (普通作物)」

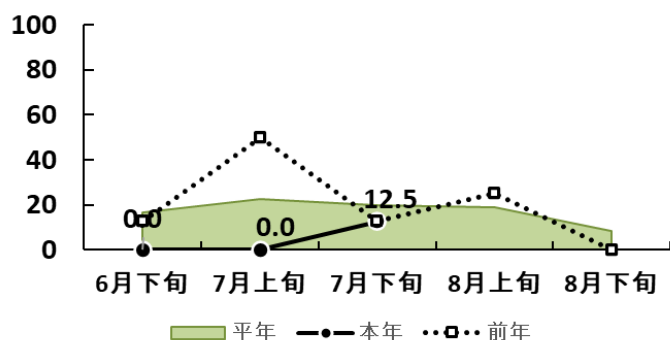
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html>

「水稲病害虫調査結果の詳細と発生予測～葉いもち発生予測システム」

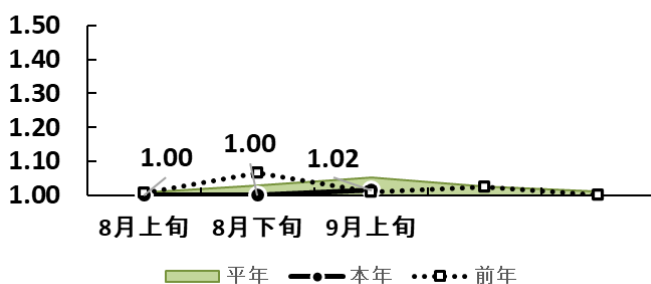
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/suito-imotobi.html>

【巡回調査データ】

葉いもち 発生地点率(北部8地点)



葉いもち 発生程度(北部8地点)



①-2 葉いもち 中西部・中東部（中生品種）

現況
(葉いもち)

予報
(葉いもち)

予報の根拠

- 7月下旬巡回調査では、葉いもちの発生地点率は11.1%（平年51.2%）、発生程度は1.01（平年1.13）で、過去10年でそれぞれ10番目、最も低い発生です。（－）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、降水量も少ないため、いもち病の発生を抑制します（－）。
- BLASTAMによる累積感染好適日は、平年並みとなっています（±）。

- (+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

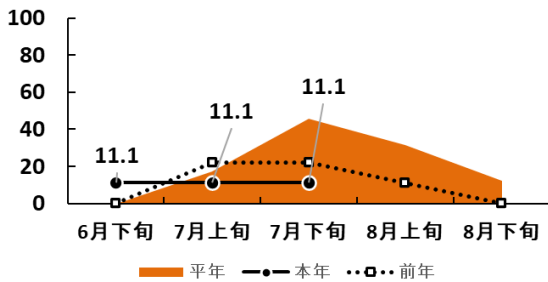


【防除上の注意事項】

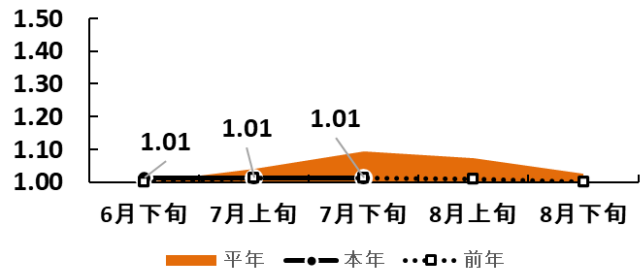
- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちが見られたほ場では直ちに防除しましょう。

【巡回調査データ】

葉いもち 発生地点率(中部中生9地点)



葉いもち 発生程度(中部中生9地点)



①-3 葉いもち 南部（中生品種）

現況
(葉いもち)

予報
(葉いもち)

予報の根拠

- 7月下旬巡回調査では、葉いもちの発生地点率が11.1%（平年43.67%）、発生程度は1.1（平年1.07）で過去10年でそれぞれ9番目、3番目の発生です（±）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、降水量も少ないため、いもち病の発生に不適です（－）。
- BLASTAMによる累積感染好適日は、平年並みとなっています（±）。

- (+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

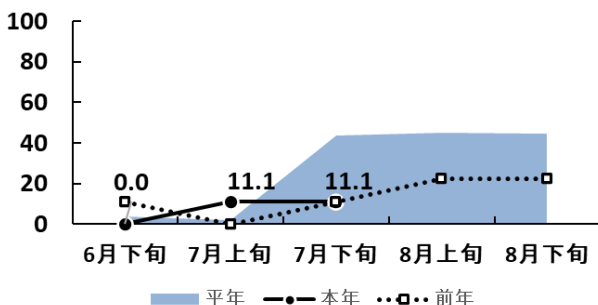


【防除上の注意事項】

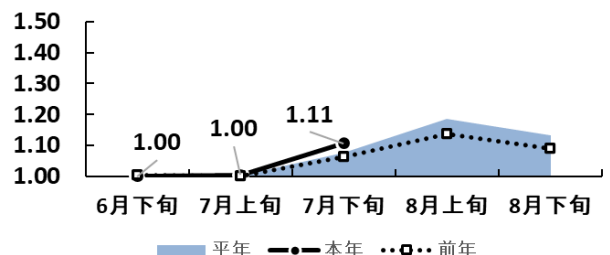
- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちが見られたほ場では直ちに防除しましょう。

【巡回調査データ】

葉いもち 発生地点率(南部9地点)



葉いもち 発生程度(南部9地点)

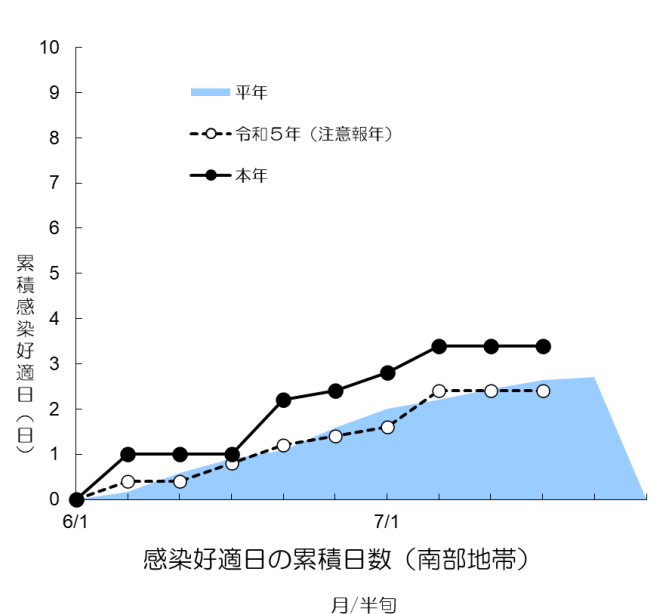
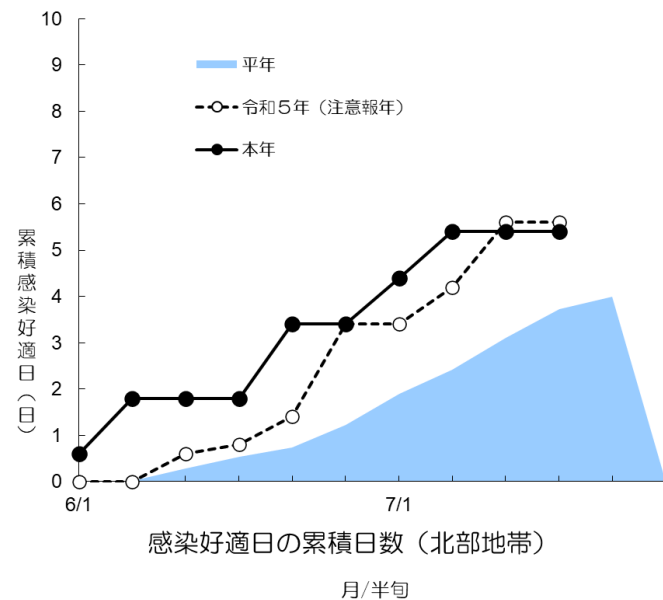
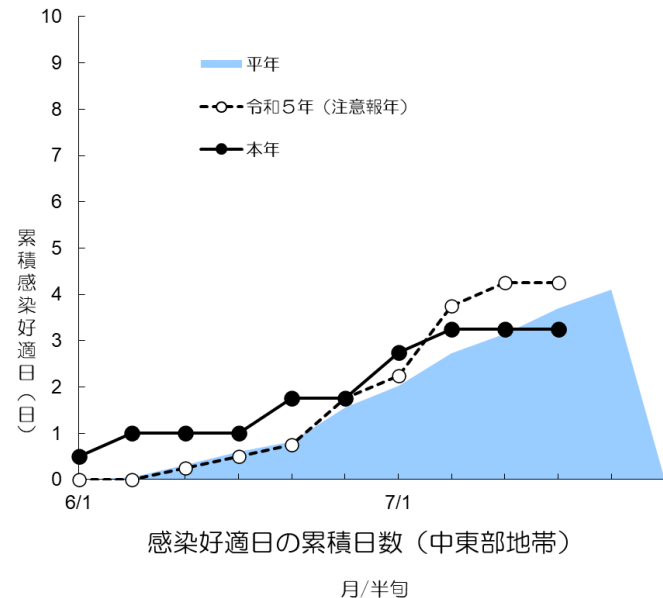
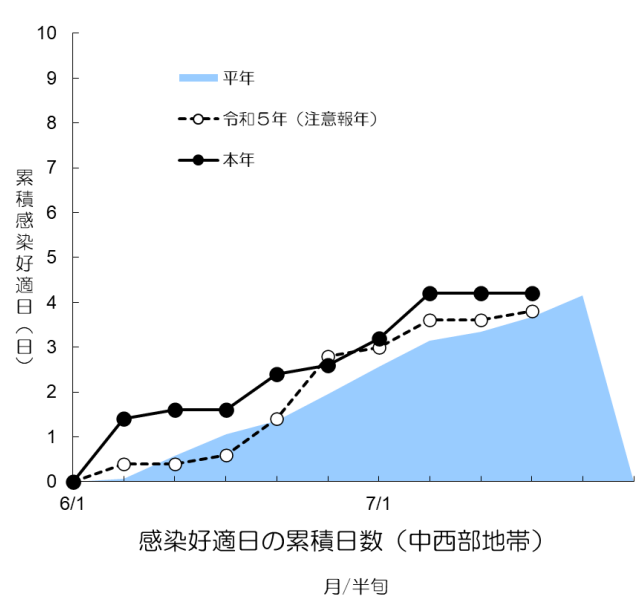


BLASTAMによる「いもち病の危険度」の推定

地帯別「いもち病の感染好適日」の累積日数

※ いもち病の発生しやすさを予測するシステム：BLASTAM（ブラスタム）を用いて、気象庁のアメダスデータ（気温、降水量、風速、日照）から、葉面の湿潤時間を計算し、いもち病が発生しやすい条件となる日：感染好適日を推定しています。

※ 累積感染好適日とは、BLASTAMによる感染好適日を累積したものです。値が大きい程いもち病の発生リスクが高いと予想されます。



② 紋枯病

現況

予報

予報の根拠

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

- 7月下旬巡回調査では、平均発生地点率が8.6%（平年16.2%）で過去10年で9番目の発生でした（-）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、紋枯病の発生を助長します（+）。

やや少



並



【防除上の注意事項】

- 高温、多湿を紋枯病菌は好みます。梅雨明け後の高温や降雨や曇天が続くことが予想されるときは防除を徹底しましょう。
- 昨年発生が多かった場合は、越冬した菌核量が多く注意が必要です。
- 薬剤防除は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が適期。薬剤は、病患部の葉鞘によく付着するよう株元をねらって散布しましょう。

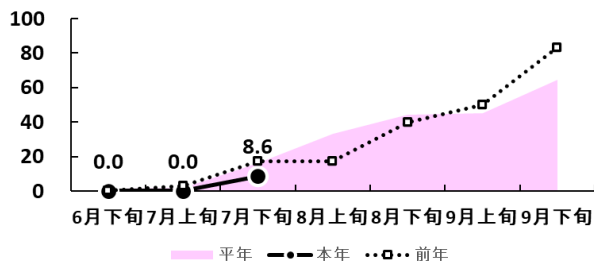
（要防除水準）

穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上。

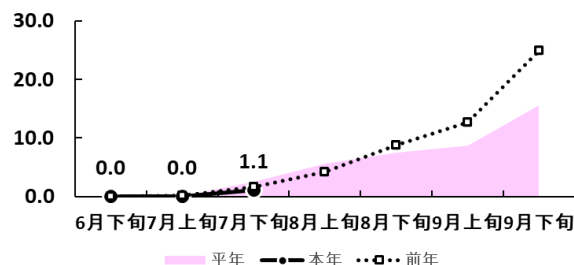
【巡回調査データ】



紋枯病 発生地点率(全域 35地点)



紋枯病 発生株率(全域 35地点)



③ セジロウンカ

現況

予報

予報の根拠

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

- 7月下旬巡回調査では、発生地点率が74.3%（平年63.6%）で平年よりやや多い発生でした（+）。
- 予察灯で、7月第1半旬に誘殺数が多くなっています（+）。
- 予察田で、7月第5半旬に100株当たり248頭（平年167頭）となっており、過去10年で4番目の発生量でした（+）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に不適です（-）。

やや多



やや多



【防除上の注意事項】

- 基幹防除を徹底し、発生量が多い場合は防除しましょう。
- 出穂期以降は通常防除の必要はありません。

（要防除水準）

幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上

- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。

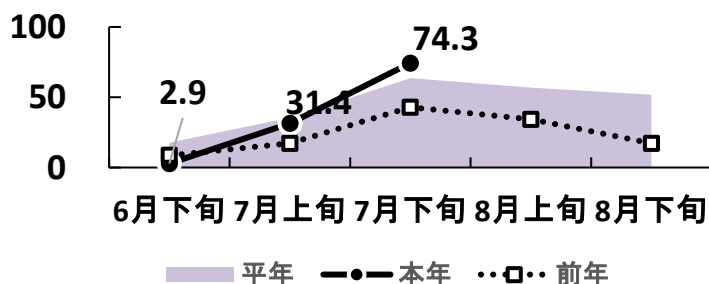


長翅型成虫



中老齢幼虫

セジロウンカ 発生地点率(全域 35 地点)



④ トビイロウンカ

現況 → 予報

予報の根拠

- 7月下旬巡回調査では、35地点中1地点で確認されました(±)。
- 予察灯(東広島市)で、7/7、8に1頭ずつ誘殺が確認されました(+)
- 予察灯(呉市)、予察田(尾道市)では、確認されていません(±)。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に不適です(-)。

(+):多発要因
(±):平年並
(-):少発要因

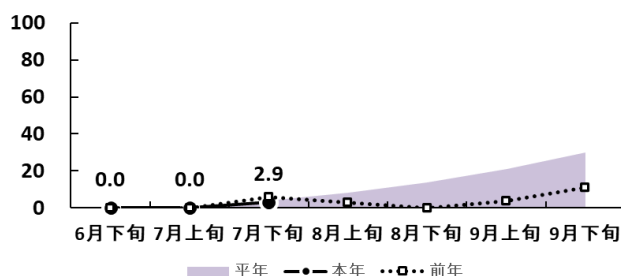


【防除上の注意事項】

- 中生品種で、長期残効型箱施用剤(トリフルメゾピリム含有)を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。
- トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。
- 要防除水準:飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。

【巡回調査データ】

トビイロウンカ 発生地点率(全域 35地点)



長翅型成虫



短翅型成虫



中老齢幼虫

⑤ コブノメイガ (中生)

現況 → 予報

予報の根拠

- 7月下旬巡回調査では、平均発生地点率が40.0%(平年21.3%)で過去10年で3番目に多い発生となっています(+)
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です(+)

(+):多発要因
(±):平年並
(-):少発要因



【防除上の注意事項】

- 粒剤の防除時期は発蛾盛期(成虫が多く見られる時期)、粉剤・液剤の防除時期は発蛾盛期1週間後です。
- 中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、防除を行いましょう。
- 有効積算温度シミュレーションによる第2世代の発蛾最盛期は、8月第3半旬です。



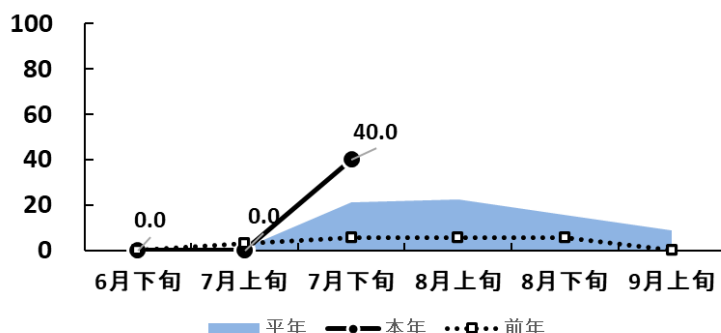
成虫



被害葉

【巡回調査データ】

コブノメイガ 発生地点率(県全域 35地点)



⑥-1 イネカメムシ

現況  予報

予報の根拠			
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因	● 7月下旬の極早生・早生品種及び早期栽培米本田すくい取り調査における要防除ほ場は6.0%です ● 7月第4半旬までの予察灯（呉市）への累積誘殺数は5頭（平年7.1頭）となっており、平年並です（±）。 ● 予察灯（尾道市）で、7月3半旬までに18頭誘殺されています。 ● これまで発生がみられなかった北部地域でも発生が確認されています（+） ● 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です（+）。	並 	やや多 

【防除上の注意事項】

- イネカメムシは、斑点米被害だけではなく不稔による大幅な減収を発生させる恐れがあります。出穂前から水田に侵入し、不稔を発生させることが確認されているため、多発地域では出穂はじめに防除しましょう。
- 斑点米被害防止のため、発生が多い場合は出穂期以降の2回目防除も検討しましょう。
- 極早生品種などの周囲と比べて出穂が早い場合は、集中加害を受けるため、特に注意しましょう。

（要防除水準）

2頭以上／20回振り

（防除時期）

出穂期～その10日後に1～2回

- 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「[調査の方法](#)」をご覧ください。



1 齢幼虫



中齢幼虫



成虫

【イネカメムシについて】

● 形態

体長12-13mmの大型のカメムシ。体色は黄褐色で背部両面に白色帯を持ちます。体形はやや細長いです。幼虫はそれより小さく、白っぽい灰色をしています。

● 生態

成虫はススキや樹木などの根元や枯葉の下などで越冬し、6月下旬～7月上旬頃に水田への飛来が見られます。出穂していない水田にも集中飛来して集団化することもあります。

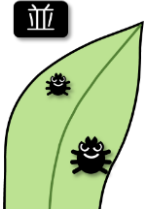
その後、早生品種から中生品種へ出穂した水稻へ移動しながら増殖し、年1～2世代を繰り返します。

その後は越冬地へ移動します。

夜行性のため、早朝などはその姿を確認しやすいですが、日中はイネの株もとに潜むため発生に気が付かず、大きな被害が発生することが多いです。

⑥-2 斑点米カメムシ類

現況 予報

予報の根拠	● 極早生品種・早期栽培稲におけるすくい取り調査、要防除ほ場率は38.1%でした（±）。 ● 早い時期からほ場への侵入が見られており、防除が遅れているほ場では、発生が多くみられています（+）。 ● 中東部の一部ほ場でカスミカメ類が多く捕獲されています（+）。 ● 7月第4半旬における予察灯（呉市）のアカスジカスミカメの誘殺数は24頭（平年29頭）で平年並みでした（±）。 ● 中国地方1か月予報では、気温が高く、降水量は平年並みのため増殖に好適です（+）。 ● 一部ほ場ではクモヘリカメムシの発生が多いほ場がみられ加害力の大きい用の発生が早い時期から見られています（+）。		
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因			

【防除上の注意事項】

- 斑点米被害は、カメムシ類の成虫または幼虫が出穂期以降に穂を吸汁し、吸汁痕が褐変して玄米表面に斑紋をつくることで起きます。したがって、防除の目的は出穂期以降のカメムシ類の密度低下にあります。
- 早生品種では、被害が集中するため基幹防除を徹底しましょう。
- 出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控えるようにしましょう。中生では出穂2週間前までに除草を終えましょう。
- 本田掬い取り調査では出穂期からほ場への侵入がみられており、防除を行っていないほ場では被害が集中する恐れがあります。期間防除を徹底しましょう。

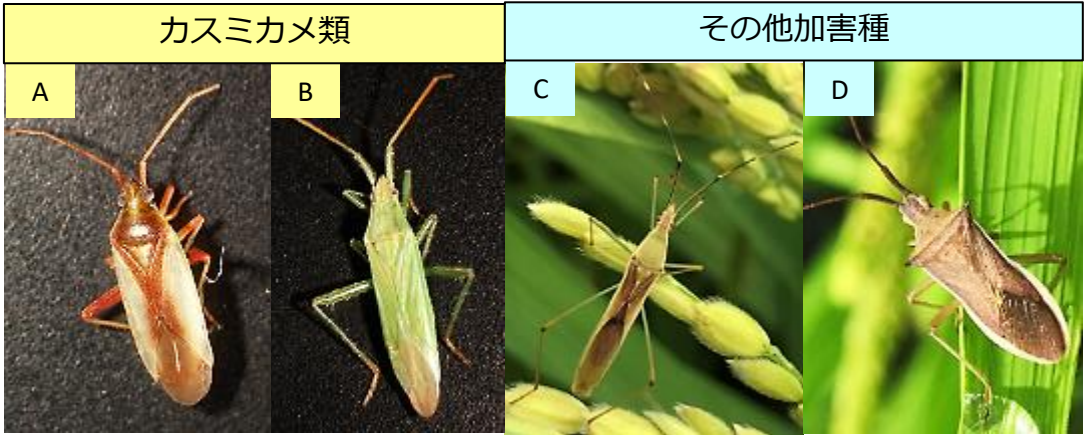
（要防除水準）

- カスミカメ類：4頭以上／20回振り、
- その他加害種：2頭以上／20回振り

（防除時期）

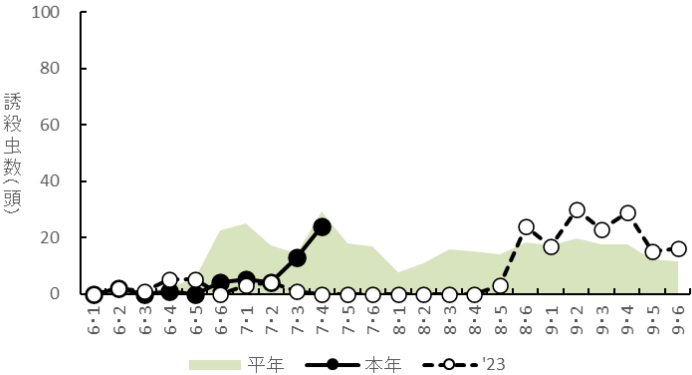
- カスミカメ類 出穂期～その10日後に1～2回
- その他加害種 出穂7日後～14日後に1～2回

● 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。



A：アカスジカスミカメ、B：フタトゲムギカスミカメ、その他加害種C：クモヘリカメムシ、D：ホソハリカメムシ

アカスジカスミカメ 半旬別誘殺数(呉市)



病害虫名	現況	防除上の注意事項
ヒメトビウンカ	少 	出穂前後の防除を徹底する。 また、縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
フタオビコヤガ	少 	穂ばらみ期防除を基本に実施しましょう。

(広島地方気象台 7月23日発表、7月25日から8月24日までの天候見通し)

- 向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。期間のはじめは、気温が高くなる見込みです。期間の前半は高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。
- 週別の気温は、1週目は高い確率70%、2週目は高い確率80%、3～4週目は高い確率50%です。

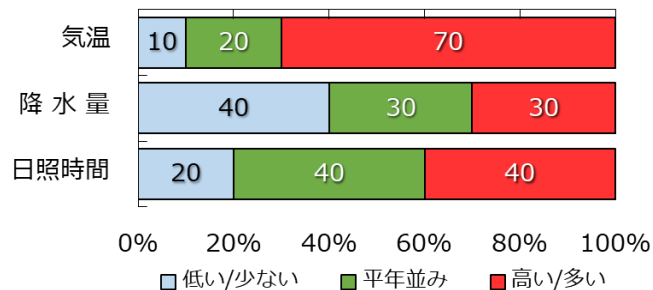


図1. 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

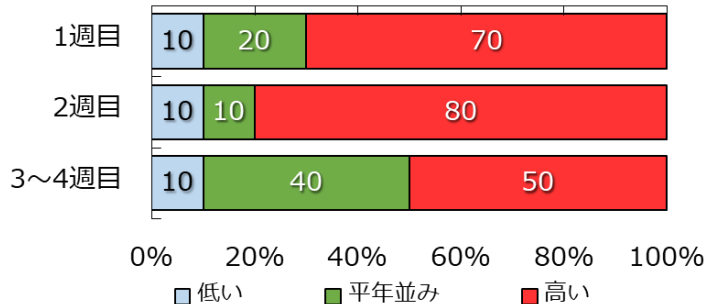
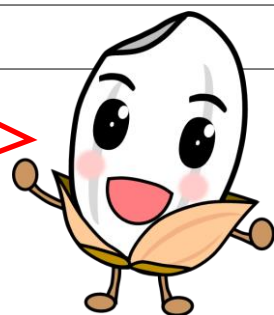


図2. 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)

6月1日から8月31日まで、**農薬危害防止運動**実施中！
農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。



●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報
二次元コードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662 (直通)